

障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野) 令和4年度中間評価について

「障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)」における令和4年度中間評価結果を公表します。
詳細につきましては、以下の各項目をご覧ください。

1 課題評価の趣旨

■中間評価

研究開発課題等について、情勢の変化や研究開発の進捗状況等を把握し、これを基に適切な予算配分や課題の中断・中止を含めた研究開発計画の見直しの要否の確認等を行うことにより、研究開発運営の改善及び機構の支援体制の改善に資することを目的として実施します。

2 課題評価委員会

開催日:令和4年7月12日

3 評価委員一覧(◎委員長)(敬称略)

氏名	所属 役職
石井 良平	大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科 教授
大野 裕	認知行動療法研修開発センター 理事長
尾島 俊之	浜松医科大学 医学部 健康社会医学講座 教授
加藤 忠史	順天堂大学 医学部 精神医学講座 主任教授
◎ 武田 雅俊	大阪河崎リハビリテーション大学 学長
中里 道子	国際医療福祉大学 医学部 精神医学 主任教授
長谷川 花	沼津中央病院 診療部長
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 講師
和田 清	埼玉県立精神医療センター 依存症治療研究部長

4 評価項目

- ①研究開発進捗状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

※AMED が定める 10 段階評価により、①～⑤を勘案しつつこれらと別に評点を付し、総合評価をする。

5 評価対象課題

(1)精神障害分野:1課題

研究開発課題名	精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究
代表機関・役職	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・理事長
研究開発代表者	中込 和幸

<評価>

研究の進捗状況は概ね良好であり、連携体制も整っている。最終的な目標症例数登録に向けて、引き続きの研究推進が望まれる。それぞれの分担研究課題に関しては、ウェアラブルデバイスの睡眠判定精度の検証や、脳神経画像の解析で進展が認められた。精度の高いレジストリ構築により、将来に向けて精神疾患の病態解明、新規の治療法確立が期待される。

(以上)